

6 求められる企業人

企業人に求められる要件は、主体性と責任性と協調性である。主体性とは、自分で考え、自分の言葉で語り、自分で実践することである。換言すれば、自分で問いを作り、自分で答えを書くことが出来ることである。企業とは常に変化の嵐の中で生存していくものであるから、言われたことだけやっけていく人は取り残されてしまう。自分で問題を捜し、自分で解決していく姿勢が求められるのである。

責任性とは、常に責任感を持って仕事に取り組み、仕事の結果について責任を取る覚悟をもつことである。社会人の責任には二種類ある。ひとつは、指示されたことや約束事を遵守して完遂する「果たす責任」であり、もうひとつは、仕事の結果に対する他人の評価を素直に受け止め、他人に苦痛や損害を与えた場合は償うこと、並びに失敗や成功から学んで今後活かすという「取る責任」である。この二つの責任は、何事においても”逃げない”、他人や環境の所為にはしないという強い意志によって担保される。

協調性とは、周囲の人とのチームワークを大切にし、組織力で仕事を完遂する態度である。協調性を発揮する場合に留意しておくべきことは、「和して同せず」ということである。得てして、他人との摩擦を厭い、その場限りの平穏を求めようとして付和雷同しがちであるが、それでは組織力は発揮できない。意見が同じなら他人と同調するが、おもねってまで妥協はしないという姿勢が大切である。なお、根本的には「One for All, All for One（一人は皆のために、皆は一人のために）」という精神を必要としていることには留意しておきたい。